

6年

	<p>①学習指導に関する現状と課題を書きます。</p> <p>②具体的な授業改善策を書きます。</p> <p>③補充・発展的な学習指導の計画を書きます。</p>
国語	<p>① 4月の全国学力調査の結果では、すべての項目で東京都の平均よりも上回った。特に「読むこと」の平均正答率は9割と高い数値を示し、これまで地道に取り組んできた学習の成果が表れた。「書くこと」の力も着実に付いてきているが、全体の中では7割に届いていないので今後の課題とする。</p> <p>② 授業の中に「対話」を取り入れ、根拠を明確にして自分の考えをもち、自分の生活経験や既習事項を基にした理由付けを行いながら、書くことを含め自分の考えを表現できるようにする学習を継続していく。</p> <p>③ 朝学習や朝読書の時間を確保することによって、多くの語彙や表現に触れる機会を増やし、多様な表現ができるようにする。補充・発展的な学習指導として、ベーシックドリルを活用する。</p>
検 証	<p>授業の中に3人組の対話を取り入れた結果、全体交流の際に自信をもって意見を述べる児童の姿が見られるようになった。また全体交流を通して、考えを再構築する児童が増えてきた。国語授業外でも、熟語や語彙を増やす課題に取り組んだ。定着に個人差が大きいので、今後も指導を継続していく。</p>
社会	<p>① 歴史学習への興味・関心が高く、意欲的に学習に取り組んでいる。しかし、各種資料を効果的に活用し、事象の背景や意味を関連付けて捉えられる児童は少ない。また、歴史と自分自身の生活との関連や継続性について思考する力は身に付いていない。</p> <p>② 学習問題に適した資料選択や提示の仕方を工夫する。また、資料を比較したり関連付けたりづけたりしながら読み取る活動や資料を効果的に取り入れてまとめる歴史新聞作りを取り入れていく。</p> <p>③ 歴史・政治等に関する新聞記事やニュース等を活用し、自分自身の生活と学習の歴史的な継続について関連付けながら学習を進めていく。学習する歴史の流れ、時代の流れの延長線上に自身の生活があるということを実感させる。</p>
検 証	<p>複数の資料を読み取る学習活動を積極的に授業に取り入れた結果、資料を比較したり、関連付けたりしながら、事象を捉えることに慣れていった。知識として定着するような取り組みが必要である。朝の時間などに時事的な話題や歴史的な内容を取り上げることで、自分自身と社会生活の関係について意識する児童が増えた。</p>
算数	<p>① 4月に行われた全国学力調査結果では、すべての項目で東京都の平均点を上回った。しかし、その中の「量と測定」では式から面積の求め方を解釈してその求め方の説明を記述したり、単位量当たりの大きさを基に求めて判断したりする問題についての平均正答率が低い傾向がある。</p> <p>② 知識の定着が確実でない部分の復習を授業で重点的に行うとともに、今までの授業でも意識的に行ってきた、「自分の考えを数学的な表現を用いて論理的に表現させる」、「提示された課題に対して、根拠を明確にして考えを述べさせる」等の取り組みを引き続き行い、授業の中で少人数や集団での討議の時間を確保するとともに、児童同士の教え合いや意見の交流を重視していく。</p> <p>③ 東京ベーシックドリル、ワークシート等を活用し、学習した内容をしっかりと定着させていく。また、習熟が不十分な児童には、授業外に個別指導の時間を設けることで、復習を行う。</p>
検 証	<p>課題であった図形やグラフについては、習熟度別の少人数指導で重点的に行うことにより、学力の定着を図った。また、授業の中で少人数や集団での討議の時間を意識的に確保することで、論理的に表現することに慣れてきた児童が増えた。理解が不十分な児童に対して東京ベーシックドリルを活用して復習を行ったが、知識の定着までにはまだ至っていないので、今後も繰り返し行っていく必要がある。</p>
理科	<p>① 基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視するとともに、観察、実験器具に触れる機会を増やしたり、実験器具の機能を理解して操作したりする学習指導を充実させる。</p> <p>② 実験結果をもとに日常生活で起こる科学的な事象と結びつけて考えられるようにすることが課題である。そのために、課題解決型の学習指導計画を立案・実践し、自分や友達の予想、計画、実験、結果、考察の流れを押さえながら指導をしていく。身の回りの自然現象とどのように関わっているかを意識させながら、実感を伴った理解へとつながられるように指導をしていく。</p> <p>③ 児童一人一人が目的意識をもって実験や課題に取り組めるように、教材や教具を充実させていく。日常生活の中の具体例を挙げ関連付けながら、一つ一つの事象を身近なものとして実感していけるよう指導する。</p>
検 証	<p>実験方法や課題を確実に押さえ、知識を確実に身に付けられるように指導してきた。また、実感を伴った理解につながられるよう、実験・観察・考察の時間を確保するとともに、身の回りの自然現象とどのように関わっているかを意識させ、どんな場面で科学の力が活かされているか捉えられるようにした。</p>
音楽	<p>① 一学期に歌唱を題材とした研究授業を行ったことから、表現の工夫について意欲的に取り組める児童が増えた。その一方でまだ意欲的に表現することが難しい児童もいる。技能が伴わないために意欲的になれない児童もいる。</p> <p>② 六年生は周年行事で中心となって歌うため、意欲や技能を高め合えるよう、学年で学び合える場を設定する。</p> <p>③ 歌リーダーの活動を5年生にも広げ、6年生が5年生に発声の方法を教えながら共に歌えるようにする。</p>
検 証	<p>周年行事で学校を代表し、記念歌を立派に歌った。意欲には個人差があるので、全体的に気持ちが高まるよう学年で学び合った。歌リーダーは5年生に歌い方の基礎を伝え、5年生のよい手本となった。</p>
図工	<p>① 意欲的な児童が多いが、技能面、発想面共に個人差が大きくでている。また、自分で考えて発展させたり、さらに工夫したりということがみられない児童がいる。</p> <p>② 既習の道具の使い方を復習しながら、制作を行う。高学年の児童が作品に繋げていけるような情報や資料を出し、楽しんで制作できるよう教材の精選を行う。</p> <p>③ 休み時間や放課後に少人数での指導を行い、制作に時間のかかる児童をサポートしていく。</p>
検 証	<p>とても意欲的に取り組む様子が見られる。ただ、時間の見通しを持って完成まで時間の使い方には課題が残った。作品への工夫もそれぞれに見られるようになってきているが、個別の指導は引き続き行う。</p>

家庭	<p>① 調理実習や掃除の実技など、意欲的に取り組んでいる。調理に関する作業については、安全に留意しながら調理器具を正しく用いて実習することができたが、裁縫については個人差が大きい。日常生活に必要な技能を学習しても、実生活で活用する機会をもつことが難しく、実践している児童は少ない。</p> <p>② 十分習得されていない技術については、間近で手本を見せるなど、示範しながら個別に指導する。裁縫については、作成の手順を掲示し、自分で確かめつつ製作できるようにさせる。また、友達同士で教え合う活動を授業の中に取り入れる。</p> <p>③ 学習した内容は、家庭でも実践させる。「家庭の感想」の欄を設け、保護者に関心をもってもらうとともに声掛けもしてもらうようにする。</p>
検 証	<p>課題であった裁縫については、作成手順などを示し自主的に活動できるようにした。また、個別に師範を見せたり、友達と教え合ったりすることで技術を習得できた。学んだ技術を定着させるため、長期休業中に家庭で取り組みの機会を設けた。授業で学んだことを発展させて取り組む児童が見られた。</p>
体育	<p>① 意欲的に取り組み、真面目な学習態度であるが、短距離走、水泳といった運動技能の習得について、個人差が大きい。運動の経験が少ない児童も多いので休み時間や放課後には、体を十分に動かすよう指導する。</p> <p>② 学習の始めに、個人のめあてを考えさせることで目標を具体的に明確にし、その達成に向けてどのような練習をしていくか見通して学習するよう指導する。また、児童相互で学び合い技能を高めていく授業形態も取り入れていく。個人の技能差が出やすい団体種目では、協働して臨めるように、よりよい動きを参考にする習慣を付け、自他を認めさせていく。</p> <p>③ 学習カード等を用いて、個人やチームの振り返りを行う習慣を付けさせる。また、体力テストの結果も活用し、それらの中から課題を見付け、工夫して活動できるようにする。</p>
検 証	<p>学習カードを活用して、個人やチームの振り返りを常に行ったことにより、これまでの活動を振り返りながら運動に取り組むとともに、自分や仲間の技能の向上に努められるようになってきた。友達の動きに関心をもたせることにより、よりよい動きについて知ることができ、友達に対しての励ましやアドバイスとなる声掛けができるようになってきた。</p>